

企業名 (設立日)	Neulpum E&C Co., Ltd. (2021. 4. 14)	代表者名	ホ・ジョンフン (Ho JongHun)
住所	5F, 4-2 Sicheong-gil 10beon-gil, Chuncheon-si, Gangwon-do		
動画:URL	https://www.neulpumenc.com 紹介動画		
製品・サービス名	建築安全・エンジニアリング統合ソリューション (建築物安全診断／建築エンジニアリング／リモデリング)		
起業の動機	<p>近年、老朽化建築物の増加や安全基準の高度化により、建築物の安全性確保と長寿命化が社会的課題となっている。一方、従来の建設業界では、安全診断・設計・施工・維持管理が分断され、現場の実態が十分に反映されないケースも多い。こうした背景のもと、「建築の安全と価値を技術で一貫して支える企業」を目指し、安全診断から設計・改修・維持管理までを統合的に提供するために設立された。</p>		
製品・サービス紹介	○ 製品 図面中心で管理されていた建築物を、BIM(3Dモデル)と施設情報を連携させることで、建物の安全性や状態を一目で把握できるデジタル施設管理システム		
	○ ターゲット市場・規模・将来性 - 公共機関・自治体、民間企業・施設運営会社、不動産オーナー・管理会社、工場・商業施設・業務用建築物所有者をターゲットに伴い、安全管理や点検の需要が拡大 - 近年、老朽化建築物の増加に伴う安全管理・点検需要の拡大 - スマートシティ化や公共DX政策の進展により、BIM・IoT・クラウドを活用した施設管理DX市場の急速な成長 - 建築安全管理のDX化は不可逆的なトレンド、BIM・IoT・クラウドを組み合わせた施設運用の標準化 - 公共・民間双方での長期的安定需要、高い成長性のある市場		
	○ 競争優位性、新規性、独自性 - このシステムは、BIM・建築安全点検・IoT・クラウドを統合したオールインワン型で、現場経験に基づくDX設計とSaaS運用による安定的かつ効率的な施設管理 - 新規性は、定期点検やセンサーデータを3D BIMモデルに直接連動させ、従来の図面中心管理からリアルタイム施設管理への転換 - さらに、建築安全・DX・施設運用を一体で提供する体制により、老朽化抑制と中長期的コスト削減を両立する独自価値		

建物をデジタルで、デジタル情報（DX）で建物をより安全に

DXベースの建物低速老化ソリューションSafety_DX（施設安全管理システムソリューション：BIM、SaaS、IoT、安全診断）



Tech 1: BIM システム
(Building Information Model)



Tech 2: Building IoT Sensor
(Structural Health Monitoring)



Tech 3: SaaS Management
(クラウド & AIoTベースの建物管理)



Tech 4: 施設安全診断
(安全性評価及び施設維持管理技術)

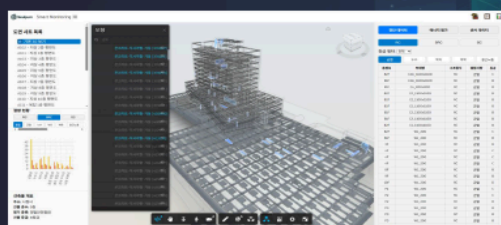
4つの核心技術をDXシステムに

Safety_DXは常にE&Cによって開発されました
BIM（建物情報モデル） 基盤施設安全管理システムでデジタルを基盤に施設安全情報を運用するソリューションです。



<DX基盤の建物低速老化ソリューション「Safety_DX」>

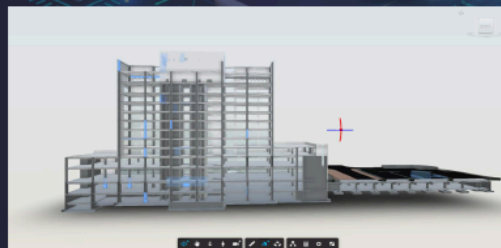
定期的な安全情報の更新、リアルタイムの建物の安全情報、3Dに基づいて一目で建物の状態を把握



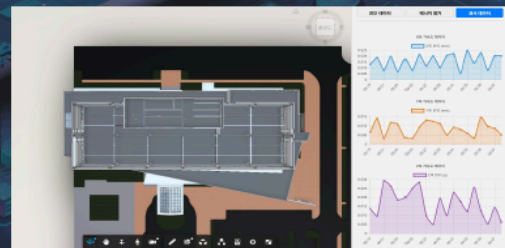
定期安全チェック/精密安全チェック/精密安全診断データベースのBIMモデリング



点検データ/センサーデータ/施設安全データを一目で視覚的に把握



どこ/いつ/どのように/なぜ施設の欠陥情報を一目で把握する



リアルタイムIoTセンサーデータクラウド運動とセンサーベース施設の安全性評価

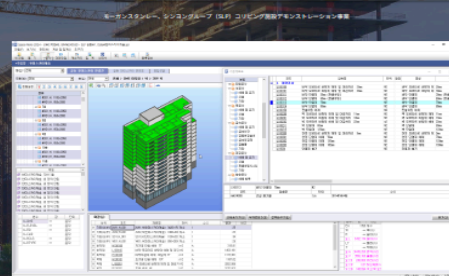
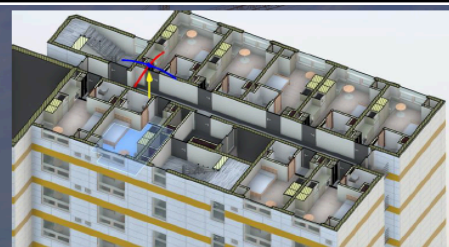
<安全・BIM・センサー・SaaS・AIoT機能を一つに (All-In-One)>

DX安全管理導入効果

BIM（Building Information Model） デジタル空間インフラ情報の運用

Safety_DXソリューションは、施設の安全管理とリスク管理のためのシステムです。
施設資産運用、運用管理、施設管理客の安全に対する不安を解消し、運営管理効率、安全等級の上昇、施設老化低減、運営費用の削減を目指します。

導入効果



Safety_DX施設BIM情報運用システム

<DX安全管理導入効果>

製品・サービス
イメージ